

# JACTFL第10回記念シンポジウム

## 外国語教育の未来を拓く：持続可能な未来を創るための外国語教育

第3部 研究発表「複数言語教育の取り組み～持続可能な人財育成をめざして～」

分科会1 文部科学省「教員養成機関等と連携した外国語教育専門人材育成事業」の報告

慶應義塾大学（中国語・スペイン語・ドイツ語）

### 「慶應義塾大学の取り組み」

山下一夫（慶應義塾大学）

2022年3月13日（日） 13：00～18：30 オンライン（Zoom）

慶應義塾大学では、外国語教育研究センターが受け皿となっていて、**令和3年度に「教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業（グローバル化に対応した外国語教育推進事業）」**を実施しました。

これは**平成29年度「外国語強化地域拠点事業」、平成30年度・令和元年度「グローバル化に対応した外国語教育推進事業」**と続けて来た、**文部科学省委託事業**です。

**令和2年度**「グローバル化に対応した外国語教育推進事業」は、実施直前にCOVID-19のため中止となりましたが、すでに慶應では実施準備を行っていたため、感染状況に留意しつつ、**外国語教育研究センター独自事業**として実施しました。

**令和4年度**「教員養成機関等との連携による専門人材育成・確保事業（グローバル化に対応した外国語教育推進事業）」にも応募し、すでに**受託の方向**で現在手続きを進めています。

慶應義塾大学で実施した文部科学省委託事業のうち、平成29年度から令和2年度分については、『**慶應義塾外国語教育研究**』第**17号**（**2020年9月発行**）に**2本の報告を掲載**しています。

**慶應義塾大学外国語教育研究センター研究プロジェクト「グローバル化に対応した外国語教育推進事業」における高大協働による取り組みとその実践例**（**縣由衣子・境一三**） pp.127-154

**外国語教育における三つの資質・能力とパフォーマンス評価**  
——**慶應義塾大学外国語教育研究センター研究プロジェクト「グローバル化に対応した外国語教育推進事業」**（**山下一夫・山下誠・吉川龍生**） pp.175-200

[http://www.flang.keio.ac.jp/files/journal\\_17th.pdf](http://www.flang.keio.ac.jp/files/journal_17th.pdf)

外国語教育研究センターは、慶應義塾で外国語教育に携わる教員が兼任で所属する組織です。事業を担当した慶應側の教員も、ドイツ語・フランス語・英語・中国語を教えています。

慶應義塾大学工学部教授・外国語教育研究センター研究推進委員

山下一夫

中国語

慶應義塾大学経済学部教授・外国語教育研究センター研究推進委員会担当副所長

吉川龍生

中国語

慶應義塾大学経済学部教授・外国語教育研究センター研究推進委員

境一三

ドイツ語・ドイツ語教育

慶應義塾大学外国語教育研究センター助教

縣由衣子

フランス語・英語

そのため拠点校の研究担当者や運営指導委員も、一つの言語だけではなく、東京都・神奈川県の中学校・高等学校の、複数の外国語の教員から構成されています。

## 運営指導委員

神奈川県立深沢高等学校教諭	日比野規生	英語、スペイン語
神奈川県立岸根高等学校教諭・高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク元代表	山下誠	韓国語、社会科
神奈川県立平塚江南高等学校教諭	辻祐哉	英語
(公財)国際文化フォーラム常務理事	水口景子	外国語教育、国際交流

# 研究担当者

カリタス女子中学高等学校教諭	Barbara BAUDE	フランス語
神奈川県立横浜翠嵐高等学校（定時制の課程）講師	遠藤正承	韓国語
横浜市立みなと総合高等学校講師	温悠	中国語、日本語
横浜市立みなと総合高等学校講師	池谷尚美	ドイツ語
東京都立青梅総合高等学校講師	石黒みのり	韓国語
神奈川県立藤沢総合高等学校教諭	潮田央	中国語、国語
神奈川県立藤沢総合高等学校教諭	佐々木亮太	スペイン語、英語
埼玉県立伊奈学園総合高等学校教諭	鈴木冴子	ドイツ語、英語

特定の言語の教員だけの構成になっていたら、その言語の教育を深く掘り下げたかも知れません。それはもちろん非常に重要な仕事です。

ただ慶應はこうした体制となったことで、**個別言語の枠を超え、高大協働で外国語教育の普遍的な目標と方法が志向**されました。

事業の柱は**学習指導要領の分析と検証**で、従来は「その他」「付け足し」のように扱われがちだった「英語以外の外国語教育」を中等教育の文脈に明示的に位置づけ、「**複言語主義による豊かな外国語教育の実現**」を目指す、というものです。



具体的に行った事柄は、次の3点です。

**(1) 4年間にわたって改訂を行ってきた、慶應事業独自の「単元指導案フォーマット」の再修正。**

授業実施前にフォーマットの記入をすると、学習指導要領で示された内容を、誰でも授業実践に落とし込むことができる、というものです。

# 指導案様式

## ■授業の概要

1. 学校名：
2. 科目名：
3. 単位数：
4. 担当者：
5. クラスの構成：高校n年生 m名(男r名・女o名)
6. 生徒の概況：
7. 使用教科書：

# ■年間指導案

## 1. 年間目標：

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養

## 2. 単元構成：

月	単元名	備考

# ■ 単元指導案

1. 単元名

2. 単元の目標

生きて働く 知識・技能の習得	未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力の育成	学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性の涵養

3. 社会と文化への気づきのポイント

4. 他教科・他科目との連携

5. パフォーマンス課題

## 6. 学習指導における具体的な評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性	
		主体的に 学ぼうとする態度	観点別状況評価や評定には示しきれない 一人ひとりの生徒の よい点・可能性・進歩の 状況
⇒ 観点別学習状況評価			⇒ 個人内評価

## 7. 単元の指導と評価の計画

次	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
1			
2			
3			

# ■本時の指導案

## 1. 本時の指導と評価の計画

分	学習活動	具体的な評価規準	評価方法
		<	

## 2. 補足事項



**(2) (1) に基づく公開授業を実施し、メンバーで授業見学を行って理論や方法について検証する。今年度行ったのは次の通り。**

- **カリタス女子中学高等学校フランス語「小説を元に演劇を作ろう」** 11月16日
- **神奈川県立横浜翠嵐高等学校（定時制の課程）韓国語「コロナのなか、みんなに送りたいメッセージ」** 12月17日
- **横浜市立みなと総合高等学校中国語「交流会を企画し、中国人と中国語でやりとりしよう」** 11月19日

- 横浜市立みなと総合高等学校ドイツ語「自分の一日」  
12月16日
- 神奈川県立藤沢総合高等学校中国語「ビデオレターで文通しよう」・スペイン語「君は一人で住んでいるよね？」・英語「J.K.Rowling:Everyone Has Hidden Power」11月24日
- 埼玉県立伊奈学園総合高等学校ドイツ語「自分のスケジュールを元にペアでやり取りを行う」11月22日
- 神奈川県立平塚江南高等学校英語「メールでの交流相手に Umamiを堪能できる料理のレシピを教える」11月2日

**(3) (1) (2) に基づき、ワークショップ「多様な外国語教育に取り組む教師向けワークショップ—来年度の授業計画を立ててみよう—」を実施。**

## **第1回 1月23日**

- 13:00～13:05 開会およびWSの概要説明
- 13:05～14:15 講演「多様な外国語教育に期待するもの」(上智大学・奈須正裕)
- 14:45～15:30 授業づくりのためのフォーマットについて
- 15:30～15:40 休憩
- 15:40～16:40 グループでの意見交換
- 16:40～16:55 グループでの内容を共有
- 16:55～17:00 総括・閉会、事務連絡

## 第2回 2月27日

- 13:00～13:05 開会挨拶
- 13:05～13:15 前回の振り返り
- 13:15～13:35 実践報告
- 13:35～14:05 グループワーク①
- 14:05～15:05 観点別学習状況評価についてのレクチャーと現状報告
- 15:05～15:20 休憩
- 15:20～15:50 グループワーク②
- 15:50～16:50 グループワークの内容共有
- 16:50～17:00 総括・閉会、事務連絡

今年度事業の成果は、現場の教員が直接授業で参考にもできるよう、次の形で公表する予定です。

**(1) 概要の報告を2022年9月に発行される『慶應義塾  
外国語教育研究』第18号に掲載（予定）**

**(2) 各拠点校の単元指導案、およびそこで用いられた  
教材の一部を2022年3月にWebで一般公開**